

なんYA!かんYA!

ようやく行動制限のない夏がやってきました。市内でもいろんなところでお祭りの開催が予定されています。この夏はぜひおでかけしてみてもいい？思いっきり夏を楽しんでね♪

7月7日(金)七夕まつり 甲南・矢川神社

★たくさんの短冊や七夕の笹飾りで境内が彩られます。お祭りのフィナーレには迫力ある手筒花火や打ち上げ花火が見られます。

7月22日(土)しがらき火まつり 信楽・駅前通り一帯

☆新宮神社から愛宕山山頂の神社へ約700本の松明が奉納され、花火を背景に紫香楽太鼓「炎」が演奏されます。

7月25日(火)～27日(木)万灯祭 土山・田村神社

★約9000灯の提灯が飾られ、幻想的な雰囲気になります。
26日の夜には屋台やステージイベントも催されます。

7月29日(土)甲賀流にんにん大花火2023 水口・水口橋周辺

☆J A こうか駐車場ににんにん横丁が出現し、出店でにぎわいます。
夜には約1500発の花火が打ち上げられます。

8月6日(日)ござれGO-SHU! 甲賀・鹿深夢の森

★江州音頭をロックやサンバ調にアレンジして、ダンサーたちがチームごとに踊りを競い合うお祭りです。

*時間などは甲賀市観光ガイドのホームページを見て確認してね!

トショブラ♥ ～思い出の本探します～

「図書館は本を借りるところ」そう思いませんか？それだけではありません！「調べものを手伝ってくれるところ」でもあるんです。図書館では今、調べものお手伝いイベント「思い出の本探します」を開催中。「タイトルは忘れたけれど、小さい時に読んだあの本、もう一度読みたいなあ」そんな本があれば図書館が探しますよ！いつ読んだ？どんな内容？ぜひヒントを教えてください。応募はスマホからでもOK！調査結果を教えるよ。質問と回答は秋の読書週間に市内図書館で発表します！（個人情報を出しません）

水口図書館 : 63-7400 土山図書館 : 66-1056

甲賀図書情報館 : 88-7246 甲南図書交流館 : 86-1504

信楽図書館 : 82-0320

ホームページ : <http://lib.city.koka.lg.jp/>

7月22日より
募集開始します

Book guide for Young Adult

甲賀市図書館ヤングアダルト通信



vol.17

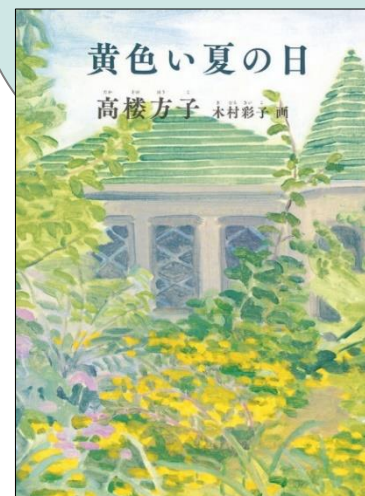
2023. Summer-Autumn

Koka City Library

ヤングアダルト (Young Adult) とは、中学生・高校生を中心とした大人と子どもの境目の世代「若い大人」「大人になりつつある人」という意味です。

甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ!』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

おすすめ この1冊



★秘密の洋館で出会った、あの夏だけの記憶 『黄色い夏の日』

高楼方子 / 著 福音館書店

中学生になって美術部に入った景介は、前から気になっている古い洋館をスケッチしようとしていた。訪ねた家の主が病院で知り合った老婦人だったことから、洋館に通うようになった景介は、そこで二人の少女と出会う。老婦人とのおしゃべりも楽しかったが、何よりそれぞれ異なる魅力をもった少女たちのことが頭から離れなかった。

彼女らとの交流が宝物のように思える一方、日増しに生気を失っていく景介は、あの家で起こる出来事の違和感に気づき始めていた。

咲き誇るキンポウゲの黄色、花々の香り、少女たちの笑い声…。光、色、匂い、音が次々と目の前に現れては消えていく。あたかも自分自身が体験したようなひと夏の幸せと痛みが、この本の中には満ちあふれている。

●この世界は、何色に見えている？

『小説嘘つき魔女と灰色の虹』

そらる／著 KADOKAWA



全てが同じように目に映る“イロ”が失われた世界。色彩が見えるのは“魔法使い”だけだという。機械技師の少年・ルーマは、色鮮やかな世界に憧れ、“イロ”が見える魔女がいると噂されている森へと向かう。迷い込んだ先で出会ったのは、魔法使いの少女・イリア。この出会いが、“イロ”のない世界を大きく動かす運命的な巡り合わせとなる。歌い手・そらるの楽曲を自らの手で小説化した一冊。あなたの見ている世界は、どんな色ですか。

●好きに生きたい。野良ネコのように自由に。

『きみの話を聞かせてくれよ』

村上雅郁／著 フレーベル館



親友とけんかしてひとりぼっちになったり、勝手なイメージをつけられて傷ついたり、ある一言で学校に行くのが怖くなったり…。もやもやした気持ちや、秘密を抱えた中学生たちの爽やかな7つのストーリー。

だれにも理解されず、途方に暮れていたとき、心に寄り添ってくれた「聞かせてくれよ」の言葉から、今まで気づかなかったたくさんの気持ちがあふれます。まるで自分の話のような、それぞれの心に響くストーリーが、見つかるかもしれません。

●幸せってなんだろう？

『時給三〇〇円の死神』

藤まる／著 双葉社



借金まみれの人生に嫌気がさしていた高校生の佐倉信司は、6月のある雨の日、死神のバイトにスカウトされる。「時給300円、半年間限定、残業代・交通費なし、休日出勤普通にあり」のブラックバイト。勤務内容は、幽霊のような《死者》をあの世に送るというもの。最後まで働けばどんな願いも叶えられる、《希望》を申請できるらしいが…。

もし今日、このときが最後だとしたら、思い残すことはないですか？伝え切れていない思いはないですか？

●キラキラ「JK」ライフはインドで！？

『JK、インドで常識ぶっ壊される』

熊谷はるか／著 河出書房新社



日本で華の「JK」として過ごすはずが、インドへ引っ越し！？映えないナンに会い、クラブ活動は命がけ、家にはメイドと運転手がいるインドライフは衝撃の連続。

文化の違いに戸惑いながらもたくましく受け入れ、やがてスラムの子どもたちとの交流で、自分にできることは何か深く考える中、2020年3月、突然ロックダウンに…。

異国の文化や人に触れ、世界はまだまだ知らないことで溢れていると、女子高生ならではの言葉や感性で綴られたインド滞在記。読むとあなたの常識も変わるかもしれない。

●好きを極めて武器にする

『オタクを武器に生きていく』

吉田尚記／著 河出書房新社



オタク＝好きなことをとことん追求する人。その分野にとっても詳しい人。そんなイメージでしょうか。好きなことを仕事にして生きていくことができたらいと思いませんか？いやいや、好きなことを仕事にできるなんて一握りの人じゃないの？そう思うかもしれませんね。

著者は中高生時代にはアニメやマンガ、アイドルに熱中し、現在はその知識を活かしアナウンサーとして活躍。オタクを武器に生きている一人です。先輩が伝授する人生の攻略法、知りたくありませんか？

●図書館司書におまかせください！

『100万回死んだねこ』

福井県立図書館／編著 講談社



図書館利用者がうっかり覚え間違えた本のタイトルから、図書館司書が正しいタイトルを導き出すという事例を集めたものです。思わず笑ってしまう覚え間違い、分からなくはないけれど、なんとなく違う覚え間違いなどが紹介されており、クイズ感覚で楽しめます。

図書館司書が本の探偵となって、見事スッパリ解決していますので、読んで笑って、そして図書館という存在をもっと身近に感じてもらえる一冊です。